平成29年6月14日

中部電力株式会社
浜岡原子力発電所長　吉田 博　殿

浜岡原子力規制事務所
統括原子力保安検査官　　中村　節生

安全文化・組織風土劣化防止に係る取り組みの総合評価について（指導）

平成28年4月1日から平成29年3月31日に行われた、浜岡原子力発電所における安全文化醸成活動については、以下のとおり評価しましたので通知します。取り組み要請事項については、確実に実行されるよう求めます。

記

（取組み要請事項）

・請負会社、特に原子力発電所の作業に不慣れな組織・人とのコミュニケーションにおいては、企業文化や企業の特性などの相手の置かれている状況をしっかりと理解した上で「事業者・請負会社間における共通認識・共通言語の醸成」を更に効果的に行うための「良好なコミュニケーション」、「常に問いかける姿勢」及び「作業管理」に係る改善の施策の検討・実施を要望する。

・クラスA、B1の不適合事象の件数から、要改善レベルとなったコンプライアンスと技術力の側面では、自業務の理解不足を起因としている不適合事象が過半数を占めている。個々人が自業務の基本を当たり前に行うことはもとより、個人だけではなくチームとして自業務の習熟度を向上させるべく、「コンプライアンス」、「事故・故障等の未然防止に取り組む組織」及び「学習する組織」に係る改善の効果的な取組みを要望する。

（奨揚がふさわしい取組み）

・不適合の採否・不適合クラスの判定などにおける要求事項や判断基準の組織内での共有化を図り、発電所幹部による不適合の最終判断を行う場であるCAP（Corrective Action Program）会合に関して、最終判断結果が社内イントラネットにより各所員にフィードバックされていること、重要案件に対する議論を深めること等を目的として平成26年11月に改善した事項（是正検討に対する議論を深くする、議論促進のためファシリテーターを設置する等）に従ってCAP会合が運営されていること等、CAP会合が有効に機能していると評価する。

・平成27年度から増加傾向にある「原子力発電所の作業に不慣れと思われる協力会社従業員による不適合事象」については、平成28年度の品質目標に不慣れな作業員によるエラー低減対策を掲げて、作業管理者のTBM（Tool Box Meeting）参加による注意の呼びかけや協力会社の品質保証担当者との連絡会を開催し、不適合事例や教訓の共有を行う活動などの実施により、協力企業との良好なコミュニケーションの向上に努めていると評価する。

・社内指針・手引類に定めたルールに抵触しないような事象であっても、常識的なことができていない場合はヒューマンエラーと判断し、安全文化に係る自らの行動に対して問いかける機会を広げて是正処置に取り組んでおり、「事故・故障等の未然防止に取り組む組織」の改善に努

めていると評価する。

（総合所見）

安全文化・組織風土の劣化防止に係る取り組み状況については、今年度の計画に掲げた取り組みは、すべて実施されており、また、特に経営者のコミットメントに関しては、管理責任者である原子力本部長へのインタビューにおいて経営責任者の積極的な関与が行われていること等を確認していることから、「計画に基づいた取組が行われ、改善傾向がみられる」と評価する。

また、安全文化・組織風土の劣化徴候に係る評価については、「コンプライアンス」、「良好なコミュニケーション」、「学習する組織」等の要素において懸念があるため、「特定の安全文化要素について劣化兆候が見られる」と評価する。

なお、安全文化に関連しているとした不適合事象については、すでに分析を行い、課題の抽出を行っており、PDCAは回っていると判断できるものの、「請負会社、特に原子力発電所の作業に不慣れな組織・人へ確実に伝えるコミュケーション」及び「自業務の基本動作の理解」が十分になされていないことが顕在化している状況であると思われるため「取組み要請事項」を踏まえて、一層の安全文化の醸成に努めて頂きたい。

以上